

# 無量壽

第九号(二〇一四年三月号)  
発行 雲夢山壽命寺



門前に咲くスイセンの花。春はもうすぐそこまで来ています。(2014/03/08 住職撮影)

三月だというのに、雪が舞っています。寒さ暑さも彼岸まで。言葉通り気候が落ち付くといいいのですが、どうでしょうか。

ところで「彼岸」ってどういう意味でしたか?なぜこの時期にお寺やお墓に参りするんでしょう?ちよつとおさらいしておきましょう。

「彼岸」とはインドの古い言葉「パーラミター」を訳した言葉で、「仏さまの世界」を指します。私たちの迷いや煩惱を川に見立て、それを超えた向こう岸に悟りの世界があるということなのです。私たち門徒にとつての仏さまとは阿弥陀如来のことであり、その世界は極楽浄土です。そしてそれは西の彼方にあると「仏説阿弥陀経」に説かれます。

## 春のお彼岸

三月十八日〜二十四日

春・秋分の日には太陽が真西に沈んでいきます。私たちの先人は夕日が沈みゆくその先に浄土を想い、そこへ先立たれたご先祖を偲び、自らもそこに生まれたいと願いました。こうして春・秋分の日を中心とした七日間を「お彼岸」と呼んで仏事を営むようになったと考えられています。

このようにお彼岸の意味は単にご先祖を偲ぶことに留まりません。その先に自らも生まれゆく世界としてお浄土を想い念仏申すことが大切です。二十一〜二十三日は本堂を開放しています。お墓だけでなく、どうぞお寺にもお参りください。



## 寿命寺の未来、雄琴の未来

連載  
第2回

## 寿命寺の「使命」とは? ~ その1

前号ではこの先お寺を支える人が減り、維持していくのが難しくなっていくという問題提起をしました。

ではどうやって寿命寺を未来に繋いでいくかということですが、それを論じる前に、そもそも寿命寺は何のために存在するのか、その「使命」について考えてみたいと思います。

「使命だなんて大げさな。ご先祖様から引き継いだものを護り伝えるだけのことだ」と思われる方もあるでしょう。でも今の時代は何につけても理由や目的の説明を求められる世の中です。お寺も例外ではなく、説明ができなくてはこれからの世代の人々に「不必要なもの」と切り捨てられてしまうかもしれないのです。

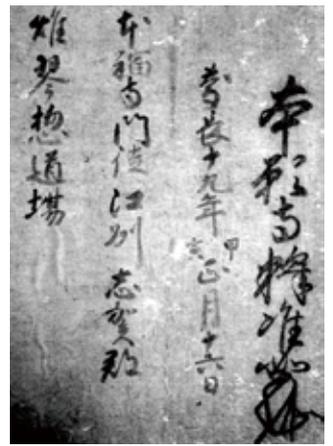
寿命寺の使命を考えるにあたっては、まずその起源を探ることでそもそもの存在意義が分かるのではないのでしょうか。写真は前号にも掲載しましたが、寿命寺の最初のご本尊であった阿弥陀如来絵像(現在右余間にかけられています)の裏書です。この絵像が当時の本願寺門主 准如上人から授けられた日付とともに、宛名として「本福寺門徒雄琴惣道場」と記されています。

「本福寺」とは本堅田の本福寺さんのことと思われま。また「道場」とは今日では武芸の修練場という意味で使われることが多いですが、元々は仏教の修行場を指す言葉であり、

中世には特に浄土真宗の門徒が念仏を唱える集会所のことを言いました。

つまり寿命寺の起こりは今のような伽藍を備えた寺院ではなく、本福寺で念仏のご縁をいただかれていた雄琴の人々が、自分たちの身近なところにもみんなで念仏を唱えられる場所がほしいと立ち上げられた集会所であったことが窺い知れます。日本にはコンビニの数より多いお寺がありますが、中には権力者や有力者がその力を示したり一族の菩提を弔うことを目的に建立されたものも少なくありません。しかし寿命寺はそういうお寺ではなく、この雄琴地域の人々の信仰心とコミュニティの中から生まれたお寺だったと言えるでしょう。

「念仏」と「地域コミュニティ」。この二つがお寺のルーツから見えてくるキーワードのようです。次号では今の寿命寺のあり方からその使命についての考察を続けてみたいと思います。(つづく)



### 門徒物知らず!? ~ 浄土真宗の仏事作法

連載  
第1回

## 毎日お参りしてますか?

いきなりですが、皆さん毎日お家の御内仏(お仏壇)にお参りしていますか?

「もちろん!」と胸をはってお答えになる方もあれば、「毎日はいないけど時々は:」と、小さな声でお答えになる方もあるでしょう。もしかするとお仏壇にお参りするのは年回の法事の時だけで、それ以外は扉を閉めてしまっているご家庭もあるかもしれません。

みなさん!住職の心からお願いです。どうか御内仏には毎日お参りしてください。朝夕ご家族揃ってお勤めするのが理想ですが、難しければ時間や回数それぞれのご都合に合わせてもらっても構いません。お勤めは「正信偈」が正式ですが、時間がなければ「讚仏偈」や「重誓偈」など短い偈文でも結構です。それも億劫?うーん、それなら百歩譲って、お念仏唱えるだけでもこの際良しとします。とにかく一日に一度は仏さまの前に座って手を合わせる習慣を持つてもらいたいです。

なぜこんなにお願いするかといえば、それは偏に勿体無いからです。お経やお名号は仏さまの言葉で出ています。それを唱えるということは、普段は悪口や言い訳など、自分の都合ばかりを発するこの私の口から、仏さまの言葉が流れ出

るということなのです。簡単な行為でこんなありがたいご利益を頂けるのに、勿体無いと思いませんか?

「そんなあほな」と仰る事なかれ。騙されたと思って一度やってみてください。ギスギスした心が少しほぐれた気がすると思います。それはきつと仏さまのお心があなたに届いた証です。

もちろんそんな心持はすぐに忘れてしまう私たちです。でも心配はいりません。忘れたらまたお参りすればいいのです。そのために、お家の一番集まりやすいところに御内仏があるのですから。

※このコーナーでは浄土真宗の仏事作法について、ご紹介していきます。皆さんからの質問も歓迎です。住職に直接、あるいは下記ホームページの問合せフォームから、お寄せください。

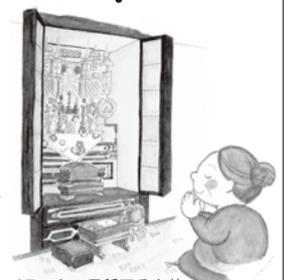


イラスト: 早稲田そよ華

#### 【寿命寺 今年の予定】

- \*3/30 門徒総会
- \*4/5 壮年会総会
- \*5/11 永代経・蓮如上人  
500 回遠忌法要
- \*5月中旬 婦人会降誕会
- \*7/13 滋賀組十六日講
- \*8/15 盂蘭盆会
- \*10/25-26 報恩講
- \*12/31 除夜会

詳細その他の情報は随時ホームページでご確認ください。